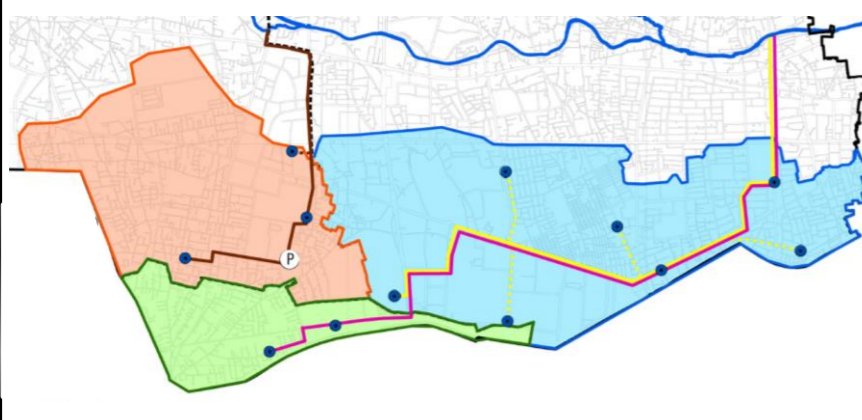
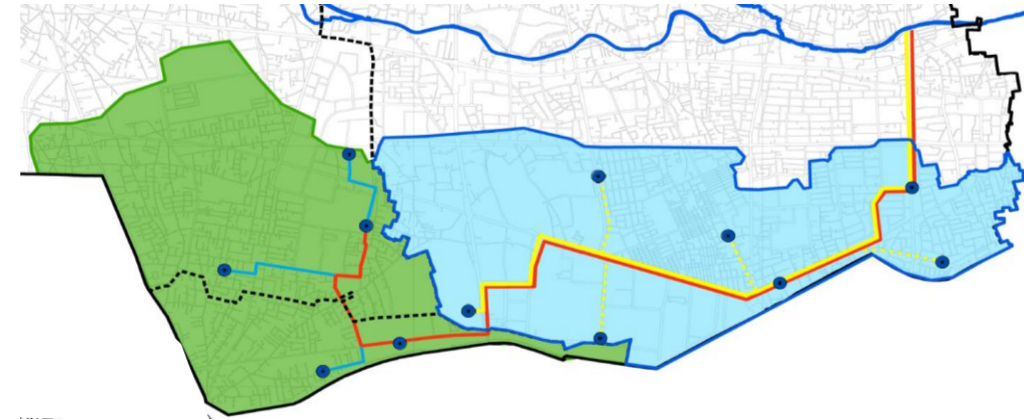
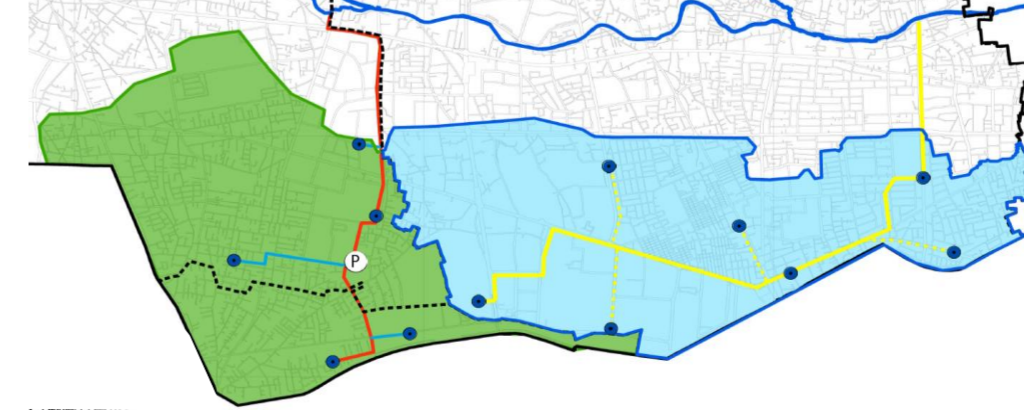
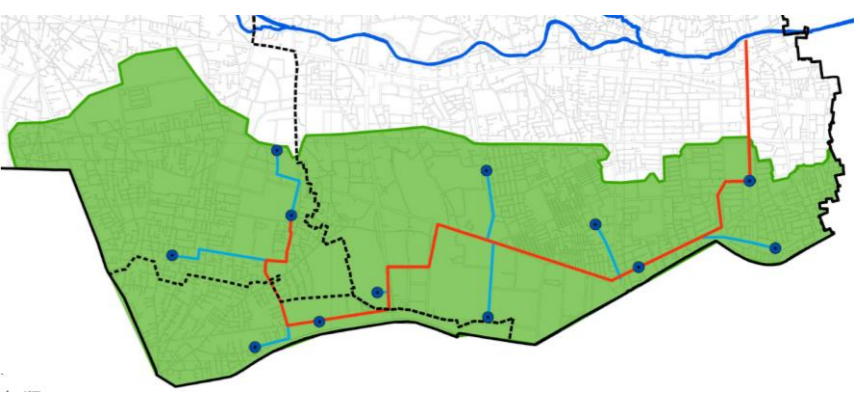


整備手法の比較 (案)

※現時点での検討内容であり、今後変更する場合がある。

整備方式		A) 各市単独①+②+③	B) 複数市連携①+市単独②		C) 複数市連携②+市単独②		D) 複数市連携③	
		各市単独	武蔵村山市+立川市 (複数市連携①)	東大和市 (市単独②)	武蔵村山市+立川市 (複数市連携②)	東大和市 (市単独②)	三市合同 (複数市連携③)	
対策案ルート図								
対策案概要	特徴	広域幹線整備は行わず、各市が単独で対策整備を行う。	武蔵村山市と立川市の2市に幹線を整備する。自然流下で東大和市を通過し、東大和市最東部付近で空堀川へ放流する。		武蔵村山市と立川市の2市に幹線を整備する。武蔵村山市最東部付近で空堀川へ放流するが、吐口の付近の河床高よりも低地部の雨水を排除するため、ポンプが必要となる。		東大和市の雨水を取水する幹線を整備し、東大和市の最東部付近で空堀川へ放流する。	武蔵村山市から東大和市にかけて空堀川右岸の流域を横断する雨水幹線を整備し、各市の雨水を一括的に取水した後、東大和市の最東部付近で空堀川へ放流する。
	ポンプ	1基			1基			
	対象面積	647.5ha (立川市82.96+東大和市345.67+武蔵村山市218.87)	301.83ha (立川市82.96+武蔵村山市218.87)	345.67ha	301.83ha (立川市82.96+武蔵村山市218.87)	345.67ha	647.5ha (立川市82.96+東大和市345.67+武蔵村山市218.87)	
	幹線延長	立川市5.5km、東大和市4.4km、武蔵村山市2.7km	6.1km	4.4km	2.8km	4.4km	6.1km	
	幹線管径 (主枝含む)	立川市 φ2,400~3,000 東大和市 φ1,350~5,500 武蔵村山市 φ2,400~4,500	φ2,200~5,000	φ1,350~5,500	φ2,200~5,000	φ1,350~5,500	φ2,000~6,000	
経済性(概算費用) [幹線、主要枝線、ポンプ所建設費、ポンプ所設備更新費(2回)、ポンプ所維持管理費(50)年の合計]		約550億程度	約400億程度		約700億程度		約300億程度	
施工性		・ポンプ用地の確保及びポンプ所の建設が必要 ・二本の幹線ルートが重複するため、大深度になる可能性が高く施工性に劣る	・二本の幹線ルートが重複するため、より大深度になる可能性が高く、施工性に劣る		・ポンプ用地の確保及びポンプ場の建設が必要		・一つの幹線で済む	
概略工期 [全事業完了までの概略施工期間]		約17年	約20年		約11年		約15年	
維持管理性		・ポンプの通常の維持管理が必要	・スクリーン清掃以外、特別な事は不要		・ポンプの通常の維持管理が必要		・スクリーン清掃以外、特別な事は不要	
留意点		・ポンプ用地が確保できない場合、本ケースでは対応困難 ・重複ルートでの各市間の協議が必要 ・立坑用地(公共用地など)確保が必須	・重複ルートでの各市間の協議が必要 ・立坑用地(公共用地など)確保が必須		・ポンプ用地が確保できない場合、本ケースでは対応困難 ・立坑用地(公共用地など)確保が必須		・立坑用地(公共用地など)確保が必須	